

動物実験に関する外部検証結果に対する取組み

国立大学法人長崎大学では、平成30年度に受審した公益社団法人日本実験動物学会が「第2期外部検証プログラム」に則して実施する動物実験に関する外部検証において、外部検証委員会より本学における動物実験の自己点検・評価が適切に機能しているとの評価を得ている。

なお、更なる改善に向けた指導・助言があった事項について、次のとおり対応を済ませ、適正な動物実験に積極的に取り組んでいる。

1. ケージ交換頻度の徹底について

【対応】

週に1回ケージ交換をすることを飼養保管マニュアルに規定し、交換頻度を徹底することとした。

2. 微生物モニタリングの実施について

【対応】

動物実験委員会において、マウスを繁殖している飼養保管施設については、施設における実験動物の飼養状況等を踏まえ、定期的な微生物モニタリングの実施を飼養保管マニュアルに規定させることとした。

3. 空調機の温湿度調節表示が正確でなかった施設について

【対応】

速やかに修理を行った。

4. 実験動物管理者教育について

【対応】

学外研修等の資料を動物実験委員会で共有し、各委員から所属部局の実験動物管理者へ周知を適宜図っている。

5. 飼養保管施設の集約化について

【対応】

平成30年度自己点検・評価において、全飼養保管施設の全飼養保管動物数のうち、先導生命科学研究支援センター動物実験施設が占める割合が年々増加しており、飼養保管施設の集約化が図られていることが確認された。